

HUB-IBARAKI ART PROJECT 2021 開催のご案内

このたび、茨木市とアートを活用したまちづくり推進事業

「HUB-IBARAKI ART」実行委員会は、

4月5日（土）より9月26日（日）までの期間、

「HUB-IBARAKI ART PROJECT 2021」を開催しております。

期間中は市内各所で複数のプログラムを実施して、まちなかで繰り広げる「アートプロジェクト」として、新たなアートの体験のかたちを提案します。

つきましては、本プロジェクトの周知にご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、プロジェクトの進行およびプログラムの開催に変更が生じる場合がございます。

本件に関するお問い合わせ、取材依頼：

茨木市市民文化部文化振興課 [担当：國米（こくまい）]

567-8505 大阪府茨木市駅前3丁目8-13

茨木市役所南館8階

Tel：072-620-1810

E-mail：bunkashinkou@city.ibaraki.lg.jp

開催概要

プロジェクト実施・開催期間 |

2021年4月5日～9月26日（日）（約6か月間）

アーティスト | 黒田 健太（ダンサー、1995年愛媛生まれ）

発表作品 | 《今、ここで、立ち尽くすために》

テーマ |

パブリックとプライベートの接点、「ストリート」を拡張する

プロジェクト内容 |

茨木市内全域を対象としたリサーチ、作品発表、

トーク、市民交流の取り組みなど複数のプログラムを実施予定

チーフディレクター | 山中 俊広（インディペンデント・キュレーター）

ディレクター | 山本 正大（少年企画）

事務局 | 茨木市文化振興課

主催 | 茨木市、アートを活用したまちづくり推進事業「HUB-IBARAKI ART」実行委員会

公式サイト | <https://www.hub-ibaraki-art.com/>（※今年4月よりリニューアル）

選定作家

黒田 健太 KURODA Kenta

1995年愛媛県生まれ。陸上競技、ボクシングと並行して、松山市のdance studio MOGAにてダンスを続ける。

京都造形芸術大学入学後に多彩な作家と交流し、舞台・映画・現代美術分野の作品制作に携わる。「Hyper performance group MuDA」にて、瀬戸内国際芸術祭をはじめとする公演へ参加する。黒田が演出を担うプロジェクト「感覚絶叫計画」にて《Reboot a stain》（2016年）、《垂るる空》（2017年）をそれぞれ発表する。2018年のアメリカ・ニューヨークへの留学を経て、現在は「HIXTO」と協働した作品制作・発表を、また「現代表現活動グルーヴ」にて檜皮一彦と共に作品制作やワークショップを行う。



僕らの日常生活がある道にはあらゆるものがはみ出しています。公的なものや私的なもの、仕事や遊び、匿名の他者やあなた。

はみ出ているものたちの振る舞いがなだらかにダンスを始めたとき、それらを区別していた境界がなくなっていきます。境界を失ったあらゆるものたちの視線がきらきらと乱反射し、ゆらめくものが僕にとってストリートと感じるものです。

これから半年間のプロジェクトでは、茨木市のストリートで出会った人と時空間を共にする“セッション”を実践し、ストリートの臨界点に立ち尽くすことから始めます。

ストリートという環境、眼差し／眼差されるものたちの関係性は渦を巻き、お互いの存在を瞬間瞬間に翻します。そのような領域の中で、僕はみなさんと過ごすことでさやかな実感を持ち、その経験が何なのかを考えるために今回のプロジェクトを行いたいと思います。

一願わくばその道の先に知らないあなたと再び出会えることを。

黒田 健太



《水面を覗く子供たち》
(ポルトガル・ラゴス、2018年)



児玉北斗《PURE CORE》
THEATRE E9 KYOTO（京都、2020年）[写真：金サジ]



現代表現活動グルーヴ《世界の中心でIを叫んだケモノ》
3331 Arts Chiyoda（東京、2020年）

今年度のプロジェクトのテーマ

パブリックとプライベートの接点、「ストリート」を拡張する

『HUB-IBARAKI ART PROJECT 2021』は、作家公募で選出した京都在住のダンサー、黒田 健太（Kenta Kuroda, b.1995）と共に、4月から9月まで、6か月間のプロジェクト活動を茨木市内で展開します。

HUB-IBARAKIは、毎年選定作家が茨木で発表する作品を起点に、「パブリック」と「アート」の関係の拡張に取り組んできましたが、今年のプロジェクでは黒田の主たる表現である「ダンス」を介して、茨木の「ストリート」に点在する「表現」に視点を向けていきます。

黒田 健太 作品《今、ここで、立ち尽くすために》

本プロジェクトの黒田の作品は、彼の身体表現を介して、茨木市内のストリートで活動している様々な表現に触れていく行為を積み重ねることにより成り立ちます。黒田の制作・活動のプロセスから、表現の場としてのストリートの概念を拡張かつ分析していくと同時に、近年はスポーツや教育の分野でも馴染みのあるダンスを取り上げることから、改めてアート（芸術）とカルチャー（文化）の境界や接点についても思考を巡らせる機会になればと思います。さらに、コロナ禍における他者とのコミュニケーションのあり方についても、身体を起点に深めていく黒田の手法から発想の転換を促し、新たな可能性を見出していきます。黒田と共に展開する今年のプロジェク活動を通じて、茨木のまちに多様な視点がさらに育まれていく半年間になれば幸いです。

アート、すなわち芸術は、美術館や劇場といった専用の施設や空間に行かないと楽しめないというものではありません。これまでHUB-IBARAKIは、まちなかでも芸術を楽しめる環境と機会を創出することから始め、さらにこの数年は芸術による活動やそのプロセスが、社会に対して何らかの役割を担うことの提示に取り組んできました。そして今年は、広く芸術的なものごとに触れられる環境を、私たちはすでに日常の中に有していることが一人一人に丁寧に伝わるプロジェクトになるように努めます。私たち茨木の「ストリート」にも、芸術は身近にかつ豊かに存在しているはずです。



過去に黒田がプライベートで実施したセッションの様子

☆「ストリート」の定義

本プロジェクトでは、公道としての歩道とそれに隣接した空間、公園や広場など、多くの人々に一定の条件でアクセス可能である開かれた場とします。その際に所有者の使用許可が無くても、社会通念上のモラルを順守することで使用が許容される場も含まれます。

メインプログラム

※ 新型コロナウイルス感染症の動向により、開催日時・内容が変更になる場合があります。最新情報は公式サイト・SNSをご確認ください。
※ 期間中、新たなプログラムを追加する予定にしています。詳細は随時公式サイト・SNSでお知らせします。
※ 事前予約制のプログラムの参加申込方法は、後日公式サイト・SNSでお知らせします。

◇ 黒田 健太 作品《今、ここで、立ち尽くすために》制作・発表

○ リサーチプロセス

日時 | 4月～7月（予定）に茨木市内各所で不定期に実施

内容 | 市内全域のリサーチ、屋外でのパフォーマンスセッション、ワークショップ



○ 舞台作品上演+クロージングトーク

日時 | 9月26日（日）13時～、16時～ 2回公演

会場 | 茨木市福祉文化会館 [オークシアター] 5階 文化ホール
参加無料・事前予約制



広い意味で「表現」と言われるものや行為は、イベントとしての明確な作りのもの以外にも、茨木のまちなかの至るところに存在し、プロ・アマを問わず様々な「表現」が日々繰り広げられています。本プロジェクトの中心となる黒田の作品は、茨木市内のストリートやパブリックな空間で「表現」をしている人たちを彼独自の方法でリサーチし、出会いとコミュニケーションの積み重ねによって作られていくものです。

期間中不定期に実施する市内リサーチを中心とした作品制作活動を経て、ひとつの上演作品を本プロジェクトの最終日に茨木市福祉文化会館（オークシアター）で発表することで、黒田の作品は完結します。また、現地活動およびそのレポート公開などのプロジェクト活動から展開・派生した、新たなプログラムが加わることも想定しています。

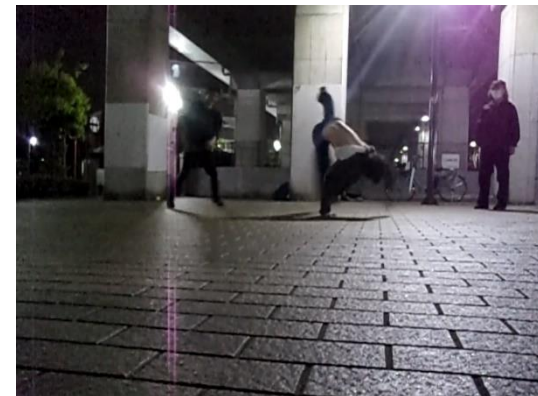
本プロジェクトの軸となる、黒田健太の作品について

作品内容

- 期間中、練習・本番、プロ・アマ問わず、市内の路上各所でストリートダンスやジャグリングなどパフォーマンスの行為（表現）をしている様々な人と出会い、その場に合流して「パフォーマンスセッション」を多数おこなう。
(市内での活動は4/12から始め、2週間で4組のパフォーマーとセッションを実施)
- その様子（セッションと対話）を映像に記録し公開する。（公開方法は現在検討中）
- コミュニケーションを重ね、想定外の展開が生まれる可能性を探る。（新たな企画も）
- 出会ったパフォーマーと交渉し、9月26日（日）に福祉文化会館のホールで開催する1日限りの公演に参加を呼びかける。公演制作は黒田が担当し、プロジェクトの最終形態の作品として発表。

プロジェクトの狙い

- HUB-IBARAKIとして初めてのパフォーミングアートの作家であり、プロジェクトが捉える「アート」、「アートとカルチャー」の領域を拡張する。
- 茨木のストリートを活動拠点とする人々の生態・活動分布をリサーチする。これまでにHUB-IBARAKIで出会うことの少なかった範囲の人々との交流を作り出す。
- 「ストリート」にあるプライベートな表現に、黒田の一連の制作活動を介して公的なアートプロジェクトが接触することによって、芸術表現としての価値を再認識する機会とする。
- 近年HUB-IBARAKIが取り組んでいる「パブリック」と「プライベート」の考察を深める。



4月中に茨木市内で実施したパフォーマンスセッションの様子

関連プログラム

※ 新型コロナウイルス感染症の動向により、開催日時・内容が変更になる場合があります。最新情報は公式サイト・SNSをご確認ください。
※ 事前予約制のプログラムの参加申込方法は、後日公式サイト・SNSでお知らせします。

○ バトンタッチトーク 永井寿郎×黒田健太

日時 | 6月20日（日）16時30分～18時

会場 | 茨木市役所合同庁舎7階 天文観覧室プラネタリウム

ゲスト | 永井寿郎（写真家、HIAP2020選定作家）

参加無料・事前予約制

（定員20名 *新型コロナウイルスの感染拡大の状況により、定員の変更、無観客収録での実施となる場合があります）

HUB-IBARAKI恒例のオープニング企画として、前回の選定作家の永井寿郎氏をお招きし、今回の選定作家の黒田との対談をおこないます。併せて、今年のプロジェクト概要の説明もおこないます。



昨年のバトンタッチトークの様子（昨年はオンライン配信のみ）

○ 茨木芸術座談会 2021

日時 | 7月31日（土）15時30分～18時

会場 | 茨木市男女共生センターローズWAM 地下1階ローズホール

参加無料・事前予約制

参加者同士がグループディスカッション形式で様々な対話をする、HUB-IBARAKI恒例のプログラムです。茨木市のこと、HUB-IBARAKIのこと、広く芸術・文化のことなど、多様な価値観や考え方を共有する機会とします。市内市外、関連活動従事の有無に関わらず、関心のある方はどなたでもご参加いただけます。



一昨年の茨木芸術座談会の様子（昨年はZoom・オンラインにて実施）

□ HIAP2021 プロジェクト活動・プログラムスケジュール（予定）

公募期間

2021年1月12日(火)～3月5日(金)

審査会 選定作家決定 3月15日(月)



- ・ 公募期間中に4回、オンライン公募説明会を開催
- ・ 全国より26名の応募が集まり、5名の審査員による選考の結果、黒田健太さんに決定。

プロジェクト実施期間／作品発表 4月5日（月）～9月26日（日）

☆ メインプログラム

黒田 健太 作品《今、ここで、立ち尽くすために》 制作・発表

【リサーチプロセス】 4月～7月

内容 | 市内全域のリサーチ、屋外でのパフォーマンスセッション、ワークショップなどを不定期に実施

制作期間
8月～9月

9月26日
(日)

【舞台作品上演&クロージングトーク】

13時～、16時～の2回公演 参加無料・事前予約制
会場 | 茨木市福祉文化会館 [オークシアター] 5階 文化ホール

☆ 関連プログラム（現在は2種類実施予定）

バトンタッチトーク 永井寿郎×黒田健太

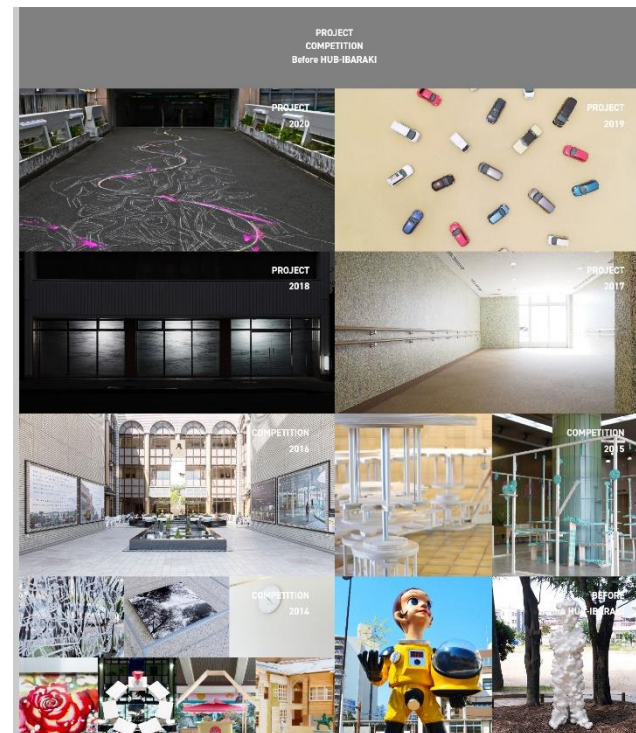
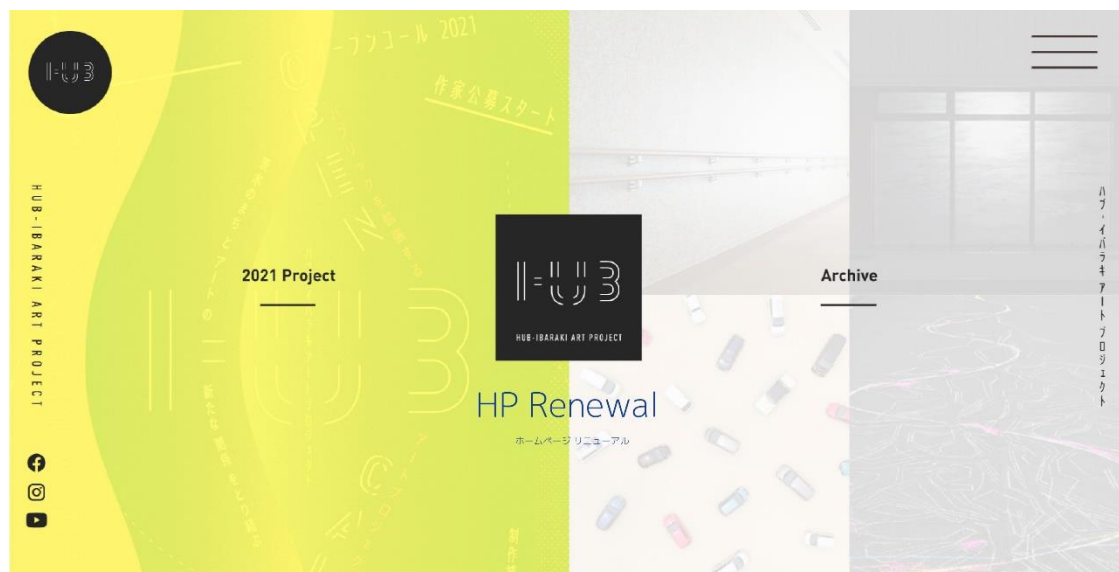
日時 | 6月20日（日）16時30分～18時 参加無料・事前予約制
会場 | 茨木市役所合同庁舎7階 プラネタリウム
ゲスト | 永井寿郎（写真家、HIAP2020選定作家）

茨木芸術座談会2021

日時 | 7月31日（土）15時30分～18時 参加無料・事前予約制
会場 | 茨木市男女共生センターローズWAM 地下1階ローズホール

※ 新型コロナウイルス感染症の動向により、開催日時・内容が変更になる場合があります。
※ 期間中、新たなプログラムを追加する予定にしています。

公式サイトリニューアルについて



今年4月より公式サイトのデザインを一新し、リニューアルオープンしました。

活動中のProjectページの他、Archiveページでは旧サイトで公開していた2017年以降の「HUB-IBARAKI ART PROJECT」の記録を再編集し、前身の「HUB-IBARAKI ART COMPETITION」3年間の記録、さらにHUB-IBARAKIのルーツとして「茨木市野外彫刻設置事業」の紹介のページが加わりました。また、これまでに発行した記録集、プロジェクト／展覧会フライヤー、作家公募フライヤーなど、主要な発行物のデータを公開し、ダウンロードも可能になりました。

これにより、HUB-IBARAKIのルーツから現在に至るまでの活動の変遷を、常時ご覧いただけるようになりました。改めて多くのみなさまに、HUB-IBARAKIの活動の蓄積と変化を確かめていただくとともに、茨木のまちや社会と様々な手法で向き合ってきた活動事例を、みなさまの活動の参考にもご活用いただければ幸いです。

<https://hub-ibarak-art.com/>

「HUB-IBARAKI ART PROJECT」について

「HUB-IBARAKI ART PROJECT（ハブ・イバラキ・アートプロジェクト）」は、「継続的なアート事業によるまちづくり」をテーマに、大阪府茨木市で実施するアートプロジェクトです。

茨木市に暮らす人々が、アート作品・アーティストとの交流を通して、アートの表現の豊かさ、美しさ、探求心に触れて、それぞれの日常へ還元していく機会を創出することを目指しています。毎年公募で1名のアーティストを選定し、作品だけで完結することなく、アーティスト自身も積極的にまちに関わり、まちの環境を継続的に育てていくことのできる作品・展示の発表をおこなっています。

本プロジェクトのルーツは2008年度から始まった「茨木市彫刻設置事業」までさかのぼり、ヤノベケンジ、名和晃平など茨木にゆかりのある現代美術家の作品が、茨木市内の野外に設置されました。2013年度から『HUB-IBARAKI ART COMPETITION』として現在の作家公募と長期間展示の形式にリニューアルし、2015年度からは作家を1名に絞って実施しています。さらに2016年度からは『HUB-IBARAKI ART PROJECT』に名称を変更して、アートによる茨木市のまちへの積極的な関わりを推奨するアートプロジェクト色を強めた企画を実践しています。



HUB-IBARAKI ART PROJECT 2016-17

作家 | 中島 麦 Mugi Nakajima
作品名 | 《WM/ウム》
会場 | 茨木市生涯学習センターきらめき、茨木市役所、ほか8会場

活動概要 | 6か月の会期中茨木市の公共施設8か所に、恒久設置を前提とした絵画・壁画作品を発表。一部の会場では現地での公開制作のほか、5つの関連企画を実施。



HUB-IBARAKI ART PROJECT 2018-19

作家 | 冬木 遼太郎 Ryotaro Fuyuki
作品名 | 《突然の風景》
会場 | 茨木市中央公園北グラウンド

活動概要 | 車とクラクションの音で音楽を奏でる、1日限りの屋外での作品発表をメインに、制作のプロセス、周知活動、発表後の振り返りなど、6か月の会期中12の関連企画を実施。



HUB-IBARAKI ART PROJECT 2017-18

作家 | 稲垣 元則 Motonori Inagaki
作品名 | 《The Light》
会場 | サワラギヤ

活動概要 | 民間の店舗を展示会場に、店舗正面のガラス面に4種類の映像作品を6か月の会期中断続的に発表。夜間のみの作品公開とすると共に、4つの関連企画を実施。



HUB-IBARAKI ART PROJECT 2020

作家 | 永井 寿郎 Toshiro Nagai
作品名 | 《特別な場所-FIXATIF 2020》
会場 | ソンオ-1茨木ビル2階ショウウィンドウ（作品発表）、市内7か所（ドローイングパフォーマンス）

活動概要 | 茨木市内7か所での短時間のドローイングパフォーマンスと、その痕跡を捉える写真作品の発表をメインに、コロナ禍の市民交流の取り組みやトークなど、会期中5つの関連企画を実施。